

【第3号様式】おきなわSDGs認証制度 継続認証 主要評価項目（アクションプランに基づく活動計画書）






初回申請から更新した箇所は黄色セル

1. 団体情報

企業・団体名	株式会社okicom
--------	------------

2. 申請内容

(1) 2030年のあるべき姿（ビジョン） ※記載必須

2030年のあるべき姿（ビジョン）	
* SDGsの目標である2030年までに、「（2）今後2年間で特に注力する活動・取組」の実施によって、貴社/団体が目指す未来を記載ください。 （貴社/団体が目指したい社会、目標の達成に向けて貴社/団体が考える課題、それに対して貴社/団体ができる取組の方向性など）	2030年のあるべき姿の実現へ向けて取り組むゴール * SDGsの17のゴールから選択し、アイコンを入れてください。
弊社のビジョンである「ITの力で地域経済の発展と持続可能な社会実現を目指す」は、SDGsの達成を目指すものであり、社員一人ひとりが業務を行う上で自覚し、それぞれの職務を全うすることでSDGs達成を目指す。 弊社が立ち上げた「沖縄DXプロジェクト」を展開し、今後2年間でIT技術を活用しながら、伝統工芸の普及、ゴミを出さない循環型ビジネスモデルの構築を行う。	    

(2) 今後2年間で特に注力する活動・取組 ※最低3個（経済・社会・環境）は記載必須

No.	今後特に注力する活動・取組			おきなわ SDGsアクションプランとの関係性			関連するステークホルダー	補足事項・留意点等	貴団体におけるKPI（進捗管理指標）		
	概要	分類 ※任意の箇所は、ブルグワンから分類を選択ください。	優先課題	SDGs推進の目標		関連するSDGs ターゲット	※連携・協力するステークホルダーがいる場合に記入する。	※補足事項等があれば記入する。	管理する指標	現状値 （2025年）	目標値 （2027年）
1	沖縄DXプロジェクトにおける、琉球びんがた普及活動	経済	必須	優先課題⑤	⑤ー2	情報通信産業が稼げる産業へと変革し、産業DXを支えるパートナーとして、沖縄の産業の持続的発展に寄与することを実現する。	8.5 11.4 12.b	・琉球びんがた普及伝承コンソーシアム	ライセンス事業案件数	累計：18件	累計：34件
2	企業活動の紹介を通じて学生の環境意識を高め、IT領域を活用したSDGsの情報提供	社会	必須	優先課題③	③ー2	時代に対応し、生きる力を育む、多様な学びの環境の形成を実現する。	4.1 4.3	・「イオーボートナース」 ・中小企業家同友会 ・各産学連携協議会	説明会回数	25回	60回
3	バガスアップサイクルプロジェクトの普及展開	環境	必須	優先課題⑦	⑦ー2	持続可能な消費・開発、自然と調和したライフスタイルの形成、廃棄物削減などによって資源循環型の社会を実現する。	12.2 12.4 12.5 12.6	株式会社BAGASSE UPCYCLE	レンタル数	900着	3000着
上記の取組に加えて、今後特に注力する取組があれば、記載ください。（分類を「経済・社会・環境・ガバナンス・地域課題への貢献・国際課題への貢献」から自由に選択ください）											
4	従業員が安心して休暇を取得できる環境を整備し、有給休暇消化率を向上させる	社会	任意	優先課題①	①ー5	安全・安心で充実感を持って働くことができる労働環境を促進し、誰もが生き生きと活躍できる社会を実現する。	8.5 10.4		有給休暇取得率	42.5%	60%
5	脱炭素経営の推進	環境	任意	優先課題⑥	⑥ー2	2050年度カーボンニュートラルの実現に向け、本県の地域特性に合ったグリーンエネルギーの導入拡大や省エネルギー対策の推進、二酸化炭素吸収源対策等が進み、災害に強い県は型の脱炭素社会に向けた基盤形成を実現する。	7.1 7.2 7.3 12.4	・株式会社パーマネットプラネット ・一般社団法人沖縄環境科学センター	CO ₂ 排出量	156.7t-CO ₂	143.9t-CO ₂

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細		
※各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。		
取組 1	取組の詳細	一般社団法人琉球びんがた普及伝承コンソーシアムを設立し、会員企業と共同し琉球紅型の魅力を全世界に広める取組や、著作権問題や後継者問題などの課題解決に取り組んでいる。
	取組において、現時点で実施／決定していること	琉球びんがたデザインプラットフォーム「BingataSpace」におけるデジタルデータによるデザイン提供機会の創出。 来沖する修学旅行生に向けた「琉球びんがたの歴史・特徴・課題」についての学習機会の提供。 観光PRとタイアップし、染付体験を通してのびんがたの魅力発信。
	取組において、今後予定していること	県外名門ホテルとの連携によるオンラインサイトでの染付体験キット「びんがた道具箱」の販売によるびんがたの普及。 他産地・異業種とのタイアップにおけるびんがたデザイン活用商品の開発の実施。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	びんがたデザイン活用のライセンス事業（著作権利用許諾）に伴い案件化したプロジェクト件数を「デザインによる価値創出」としてカウントしている。 1年8件を目標に、2年間で合計16件をKPIとする。
	取組を推進する体制	琉球びんがた普及コンソーシアム（弊社新規事業企画部参画）
取組 2	取組の詳細	・学生を対象とした会社説明会を開催し、事業内容だけでなく、自社のSDGsへの取組を紹介する。 ・学生が「企業活動と社会課題のつながり」を理解できるよう、質疑応答やディスカッションの時間も設ける。
	取組において、現時点で実施／決定していること	学生向け資料に、自社のSDGs関連活動をまとめたスライドを準備する。
	取組において、今後予定していること	・説明会の回数を増やし、より多くの学生に参加してもらう。 ・大学や専門学校との連携を強化し、参加者層を広げる。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	・説明会の「実施回数」は、取組の活動量を客観的に示すシンプルかつ明確な指標であり、学生への接触機会を増やすことが、環境意識向上につながるため。 ・過去の開催実績や人的リソースを踏まえ、達成可能性を確保し、1年30回を目標に、2年間で計60回をKPIとする。
	取組を推進する体制	若手社員を中心に講話チームを構築する。
取組 3	取組の詳細	株式会社BAGASSE UPCYCLEを設立し、かりゆしの搾りかす（バガス）を利用した循環型経済ビジネスモデルを構築する。
	取組において、現時点で実施／決定していること	大手旅行社や県内宿泊施設とのタイアップで、来沖する団体・個人旅行者向けのかりゆしウェアのシェアリングサービスを提供している。
	取組において、今後予定していること	・修学旅行生をターゲットにした学生プランの展開。 ・県内企業向けのかりゆしウェアのサブスクリプションプランの展開。 ・大型イベント（展示会、商談会等）の主催者・出店者ユニフォームとしての活用提案。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	シェアリングサービス利用でのかりゆしウェアの利用着数をカウントしている。 1年1500着を目標に、2年間で合計3,000着を目指す。
	取組を推進する体制	株式会社BAGASSE UPCYCLE（弊社新規事業企画部参画）
取組 4	取組の詳細	従業員の心身の健康維持とワークライフバランスの推進を目的として、有給休暇の取得促進に取り組む。
	取組において、現時点で実施／決定していること	有給休暇取得率測定を開始し、毎月定例の衛生委員会にて経営幹部に報告する。
	取組において、今後予定していること	有給休暇取得率と離職率・従業員満足度の関連分析を実施し、人的資本経営の指標として活用する。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	・有給休暇消化率は従業員の健康・働きがいと直接的に示す数値であり、SDGs目標3「健康と福祉」、目標8「働きがいと経済成長」に直結する。 ・厚生労働省の調査による日本企業の平均消化率（約50%前後）を基準に、情報通信業界の平均を上回る水準を目標とする。2年後の消化率をKPIとして設定。
	取組を推進する体制	・人事部 ・衛生委員会
取組 5	取組の詳細	・脱炭素経営に関して、Scope 1 及び 2 の算出を行い、SBTへの登録を行うと共に、CO ₂ 排出量の削減に取り組む。 ・利用する電力に関しても再生エネルギーに切り替える
	取組において、現時点で実施／決定していること	Scope 1 及び 2 の算出の継続と、利用する電力を非化石証書を購入して再生エネルギーを実施。
	取組において、今後予定していること	企業活動が環境・社会・経済に与える影響（ポジティブ／ネガティブ）を包括的に分析・評価し、持続可能な成長を金融面から支援するPIF（ポジティブインパクトファイナンス）を通じて、企業のサステナビリティ目標（KPI）設定と進捗管理を行う。PIFのKPIの枠組みでSBTと関連するCO ₂ 排出量の削減の目標設定を行う。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法	・CO ₂ 削減に関して、年間4.2%をKPIとする。2025年のCO ₂ 排出量は156.7×0.958×0.958≒143.9（t-CO ₂ ）以下となる想定。 ・妥当性：SBTに準拠した水準である。 ・計測方法は年度ベースでScope1/2を算出、モニターを行う。
	取組を推進する体制	サステナ推進室